松江市街地内水対策（素案）

昭和47年7月豪雨、平成18年7月豪雨では、本川（宍道湖・大橋川（支川朝酌川））の水位が上昇したため、松江市街地が広範囲にわたって長時間浸水し、家屋浸水、幹線道路の通行止め等の被害が発生した。

松江市街地の浸水対策は、本川からの浸水を防ぐ外水対策と、内水河川（天神川・松江堀川）から本川への自然排水することが困難となり発生する浸水を防ぐための内水対策に分けられる。

外水対策としては、斐伊川治水3点セット（下流の大橋川改修、中流の斐伊川放水路、上流の尾原・志津見ダム）による以下の対策が重要となる。

①堤防・水門等で本川から市街地への流入を防ぐこと

②本川の水位を下げ、内水河川の洪水を自然排水させること

また、平成18年11月28日には、「松江市街地浸水にかかる当面の対応策」として、斐伊川治水3点セットが完成するまでの間、平成18年7月豪雨と同規模の洪水に対して、床上浸水と幹線道路の通行止めを防ぐ対策を発表し、平成20年度までに水防活動体制を整えるとともに、施設整備を終えたところであるが、昭和47年7月豪雨規模の洪水に対する内水対策は未だできていない。

一方、平成21年3月に「斐伊川水系河川整備基本方針」が変更され、「斐伊川水系河川整備計画」の策定作業が進む等、大橋川改修計画策定が最終段階にある。

したがって、戦後最大の浸水被害を生じた昭和47年7月豪雨と同規模の洪水に対して内水被害の軽減を図るため、外水対策と併せ、「松江市街地内水対策」を策定・実施する。

基本方針

「斐伊川水系河川整備基本方針」に基づき、今後策定される「斐伊川水系河川整備計画」による外水対策と併せて、ハード対策とソフト対策が一体となった総合的な内水対策を実施する。

整備目標

松江市街地で戦後最大の浸水被害を生じた、昭和47年7月9～13日豪雨（時間雨量 36 ㎜、1日雨量 199 ㎜）と同規模の洪水に対し、松江市街地の床上浸水被害の解消と床下浸水被害の軽減を図る。

対策内容

[橋北地区]

・既存内水排除ポンプ（15m3/s）に 5m3/s 程度追加する。今後、有効な設置位置を選定する。

・浸水被害が解消されない一部地域については、別途二次内水対策を実施する。

・施設整備のみでの浸水被害解消は困難なため、流域全体の取り組みとして、流域貯留浸透対策等のソフト対策を実施する。

[橋南地区]

・外水の流入による浸水被害を防止するため、天神川上下流端及び権太夫川に設置が計画されている水門を的確に操作することにより、自然排水により内水を排除することを基本とする。

・大橋川へ直接流出する地区については、松江市下水道（雨水排水）事業により排水ポンプを新設する。

・浸水被害が解消されない一部地域については、別途二次内水対策を実施する。

・施設整備のみでの浸水被害解消は困難なため、流域全体の取り組みとして、流域貯留浸透対策等のソフト対策を実施する。

期待される効果

	S47.7 豪雨実績（旧松江市全域）	→	外水対策（ダム・放水路、大橋川築堤、逆流防止水門完成）	＋	内水対策（素案）	＋	二次内水対策
床上浸水戸数	約 6,000		約 30		0		床下浸水被害軽減を図る
床下浸水戸数	約 14.500		約 500		約 170		